

## 6. 心身障害発生防止のための 小児保健環境学的研究

分担研究者 木村 三生夫 (東海大学小児科)  
研究協力者 平山 宗宏 (東京大学母子保健)  
小林 芳文 (横浜国立大学)  
小林 琢 (東京大学)  
津田 康之 (平塚市民病院)  
高倉 巖 (東海大学)

小児の死因のうち、乳児を除いて、不慮の事故は死因の第一位にあるが、後遺症発生に関する実態は明らかではない。交通事故については、関係方面でのまとめはあるが、その他の事故については、事故発生の現状調査より、追跡を行うことが必要である。このような観点から、昨年度に引き続き、農村における調査、一都市における救急車活動からみた小児の事故の調査及び、第一線病院における状況について分析を行ない、今後の追跡を行う資料とした。

わが国の交通事故以外の不慮の事故による死亡は総数約16,000(人と10万対死亡率13.9)でありこの数は1950年当時の約25,000に比べれば減少しているものの、そのうち小児(0~14才)が約20%を占めており、他の小児死因が減少するなかで、なお主要な位置を占めている。その内容では溺死、墜落、窒息、落下物によるものが大部分を占め、特に溺死が多いことはすでに指摘されていることである。(表1.2.3)

溺死の内容をみると、当然予想されるように河川・海・池などでの死亡が多いのであるが、自宅内での死亡が、小児では総数の4分の1に達し、自宅の風呂場における死亡が、年間300人にも達すると推定されることは、家庭内での注意喚起が必要であることを示している。(表4)このなかで、救急車の利用状況を見ると、小児事故死亡例の約3分の1が利用しているという数字があげられているが(表5)、事故発生時の利用状況から考察する必要がある。このために神奈川県伊勢原市という一小都市の調査を行った。

その結果は、救急車を必要とする小児の場合、事故によるものが事故以上を占め、小児人口から考えると、100人に1人は1年間に1回、事故のために救急車を利用していることとなる。直接医療機関に行くものも、軽症の場合は、これ以外にかなり多いと考えられるが、小児を取りまく環境は、極めて危険に満ちていることを示している。このことは、家庭における事故発生防止への関心を高めることが、第一義的に必要であることを示唆する。

表 1. 交通事故以外の不慮の事故

年次推移

死亡率：人口10万対

		1950	1955	1960	1965	1970	1975	1977	
交通事故以外の 不慮の事故	数	25,200	22,603	21,025	20,294	19,220	16,963	15,729	
	死亡率	3.07	2.53	2.25	2.07	1.86	1.52	1.39	
主要死 因別	溺死	数	9,713	8,485	6,467	5,561	4,342	4,155	3,868
		率	1.17	9.5	6.9	5.7	4.2	3.7	3.4
	墜落	数	3,132	3,441	4,116	4,383	4,911	4,735	4,380
		率	3.8	3.9	4.4	4.5	4.8	4.3	3.9
	窒息	数	2,023	2,090	1,920	1,861	1,909	1,927	1,871
率		2.4	2.3	2.1	1.9	1.9	1.7	1.6	
落下物	数	2,141	2,191	2,104	1,582	1,314	745	714	
	率	2.6	2.5	2.3	1.6	1.3	0.7	0.6	
火災	数	...	...	...	...	1,973	1,610	1,637	
	率	...	...	...	...	1.9	1.4	1.4	

表 2 死因別，年齢別内訳 1977

%：総数に対する割合

		総数	0才	1~4才	5~14	15~44	45~64	65~	不詳	
交通事故以外の 不慮の事故	数	15,729	726	1,566	913	1,974	3,460	5,077	13	
	%	100	4.6	10.0	5.8	12.6	22.0	32.3		
主要死 因別	溺死	数	3,868	52	1,015	532	889	563	813	4
		%	100	1.3	26.2	13.8	23.0	14.6	21.0	
墜落	数	4,380	39	109	67	976	1,151	2,036	2	
	%	100	0.9	2.5	1.5	22.3	26.3	46.5		
窒息	数	1,871	555	135	54	126	246	752	2	
	%	100	29.7	7.3	2.9	6.7	13.1	40.2		
落下物	数	714	3	14	36	297	292	72		
	%	100	0.4	2.0	5.0	41.6	40.9	10.1		
火災	数	1,637	40	118	106	283	284	806		
	%	100	2.4	7.2	6.5	17.3	17.3	49.2		
火傷※	数	251	10	98	19	26	25	72	1	
	%	100	4.0	39.0	7.6	10.4	10.0	28.7		

※ 高熱物体蒸気腐食性液体による事故

表3. 不慮の事故の国際比較(1974)

		死亡者数			死亡率人口10万対		
		0才	1~4	5~14	0才	1~4	5~14
不慮の事故 含自動車事故	日本	1,083	2,890	1,955	<u>53.3</u>	※ <u>36.1</u>	<u>11.9</u>
	アメリカ	1,453	3,882	7,037	48.3	29.2	18.4
	イギリス	248	437	788	38.7	14.9	10.0
	フランス	835	833	1,112	102.0	24.3	13.8
	ドイツ	719	796	1,643	116.2	26.5	16.4
	オランダ	98	221	346	51.9	24.7	14.3
自動車事故	日本	41	815	822	<u>2.0</u>	<u>10.3</u>	<u>4.9</u>
	アメリカ	224	1,322	3,332	7.1	10.0	8.7
	イギリス	6	142	482	0.9	4.8	6.1
	フランス	32	256	516	4.0	7.5	6.4
	ドイツ	17	377	1,105	2.8	12.5	11.1
	オランダ	3	68	238	1.6	7.6	9.8
溺死	日本	76	1,197	579	※ <u>3.7</u>	※ <u>15.1</u>	※ <u>3.5</u>
	アメリカ	68	832	1,234	2.2	6.3	3.2
	イギリス	7	66	75	1.1	2.2	0.9
	フランス	7	158	144	0.9	4.6	1.8
	ドイツ	3	146	149	0.5	4.9	1.5
	オランダ	0	99	44	0	11.0	1.8
墜落	日本	48	129	94	<u>2.4</u>	<u>1.6</u>	<u>0.6</u>
	アメリカ	87	159	172	2.8	1.2	0.4
	イギリス	11	34	45	1.7	1.2	0.6
	フランス	20	70	47	2.5	2.0	0.6
	ドイツ	9	50	55	1.5	1.7	0.6
	オランダ	0	9	12	0	1.0	0.5
工業 不慮性の 事故	日本	33	219	125	<u>1.6</u>	※ <u>2.8</u>	<u>0.7</u>
	アメリカ	50	216	377	1.6	1.6	1.6
	イギリス	4	37	63	0.6	1.3	0.8
	フランス	3	25	24	0.4	0.7	0.3
	ドイツ	7	63	91	1.2	2.1	0.9
	オランダ	0	5	13	0	0.6	0.5

表 4. 不慮の事故1977. 4.1~6.30の調査

	年 令	自宅 屋内の 風呂 場の	自宅 屋内の 居 間の	自宅 屋内の その 他の	自宅 屋外の 池	自宅 屋外の その 他の	自宅 屋 内 の	河川 ・ 海	池 堀	田 畑 山 林	そ の 他	計
溺 死	0才	7		1								8
	1~4	62		2	38	1	5	54	163		1	326
	5~14	3			1			62	75	2		143
墜 落	0才		2				1					3
	1~4		4		1	6	2		3		2	18
	5~14					4	1				5	10
窒 息	0才		89	2			8					99
	1~4		15	2	1	1	2		2		1	24
	5~14		2				1				1	4
落 下 物	0才		1				1					2
	1~4						1				3	4
	5~14					1	2			1	7	11
自動車事故 以外の不慮の 事故の総数	0才	7	98	3			10					118
	1~4	64	28	7	40	9	11	54	168	2	12	393
	5~14	6	33	1	1	5	6	62	76	7	18	215

表 5. 発生から死亡までの時間, 救急車利用状況

	年 令	1 時 間 未 満	1 日 未 満	1 日 以 上	不 詳	救 急 車 利 用 し た	そ の 他	不 詳	計
溺 死	0才	7	1			5		3	8
	1~4	254	64	7	1	109	12	205	326
	5~14	121	21	1		43	2	98	143
墜 落	0才	2	1					3	3
	1~4	9	4	5		10	1	7	18
	5~14	4	6		1	5	2	3	10
窒 息	0才	92	6			38	3	58	99
	1~4	23	1			8	1	15	24
	5~14	3	1			1		3	4
落 下 物	0才	1	1			1		1	2
	1~4	3	1			1		3	4
	5~14	8	1	2		7	1	3	11
火 傷	0才								0
	1~4		3	1		3		1	4
	5~14		2	2		3		1	4

自動車事故以外の  
 不慮の事故全例の  
 救急車利用

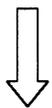
0才	45/118
1~4	137/393
5~14	66/215

} 248/726(34.2%)



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



小児の死因のうち、乳児を除いて、不慮の事故は死因の第一位にあるが、後遺症発生に関する実態は明らかではない。交通事故については、関係方面でのまとめはあるが、その他の事故については、事故発生の現状調査より、追跡を行うことが必要である。このような観点から、昨年度に引き続き、農村における調査、一都市における救急車活動からみた小児の事故の調査及び、第一線病院における状況について分析を行ない、今後の追跡を行う資料とした

。